

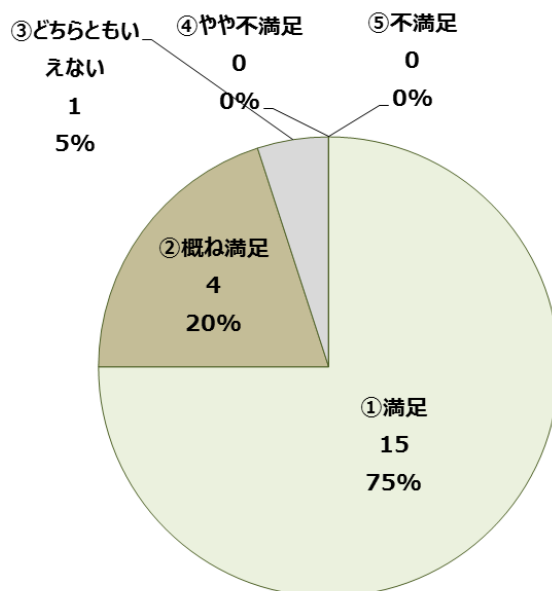
「米国におけるアセスメント実践事例に関する勉強会」アンケート結果

アンケートは、参加者 23 名のうち、20 名から回答があった。5 段階で伺った勉強会の満足度は、図 1 に示す通り、75%が「満足」と回答した。参加者のうち、「学習成果」あるいは「アセスメント」について新たな知見を得たとした方や、講師の具体的な実践事例を自大学に適用したいと思った方について、特に満足度が高くなっている。少数数によるインタラクティブな進行や、実際の業務で利用されているリアリティのある教材の使用について、肯定的な回答が多く寄せられた。2 時間という時間設定についても適切との回答であった。一方で、アメリカの高等教育あるいはアセスメントについての前提知識がなく、理解を深めることが難しい面があったとの意見があったものの、特に否定的な指摘はなかった。

自由回答としたご感想・ご意見の欄には、講師への謝辞とともに、さらに詳細な報告を伺いたい旨の感想や、今後も実践事例を中心とした勉強会の開催を期待したいとの希望が複数の参加者から寄せられた。

(山本 [明治大])

H27 年 11 月 17 日開催



満足度 (N=20)

図 1 : 満足度

「米国におけるアセスメント実践事例に関する勉強会」アンケート結果

No.	所属	1.参加した催し物で得たこと	1-2満足度	2.回答した理由	3.ご意見ご感想
1	国立大学	能力や知識以外で、学生の困っているところを見ることも学習成果の測り方に含まれる。	1	新たな知見、気づきを得られた。	引き続き、具体的な事例を用いた研究会を希望します。
2	国立大学	問題点を見つけやすくする基盤をつくる事例でよかった。	2	教学に関する具体的なデータの作り方、測定結果同士の組み合わせをどのような使い方をされて意味を見出すのかの具体例が拝見できて勉強になりました。 「①満足」でないのは、私に前提知識がいくつか欠けていたからです。	これまで期間評価などに関わったことがなく、最近IRに関わるようになりました。コースワークで学生が得られるものを測定するためのマッピングの議論の中で、日本では(アメリカでも一般的には)結果をもとに改善するサイクルが一般的ではなく、一方向で完結するプロセスとして取り組まれているらしいという点に驚きました。論点を誤解したのだと思いますが、一般に組織の中でプロセス標準に関する共通認識をつくることはしないのでしょうか。それとも認識の共有が出来ているから1サイクルでOKということが前提になっているのでしょうか。
3	私立大学	①学習成果の測定には、学生の能力の測定だけではなく、「学生をつまづきを理解すること」や「教員の教育方法の穴を埋めること」も含まれ(目的となり)、そのための測定方法やツールの使い方があるという新たな視点。②学習成果の測定は、全学あるいは学科一律に行うものではなく、学科固有の方法を選択し、プロジェクト的にカスタマイズされた方法で測定されているという点。③適格認定と自己点検・評価とのサイクルに合わせて計画的にアウトカムアセスメントが行われているという新たな知見。	1	学習成果の測定を目的ベースから理解を深められ、かつ具体的なツールで自大学に応用できるイメージを得られたため。	学習成果の測定は、各大学で未成熟な分野であり、今回のように自大学の取り組みに反映できるヒントが得られる勉強会の継続を希望します。本田先生のご報告は、実務担当者にとって深い共感と同時に知見の蓄積ができる貴重なものでした。ありがとうございました。
4	私立大学	学習成果の捉え方から具体的な実践事例に焦点を絞ったご説明を頂き、米国の大学教育や、教員、IR部門で何が課題になっているか理解を深めることができた。	1	上記1のとおり。	サクセスレートの事例は、その背景や立場によるデータの見方、それらを横断的に理解する上で参考になった。
5	私立大学	—	1	インタラクティブに聞きたいことが聞けた。実際の画面を通して、リアリティを感じる事ができた。	—
6	私立大学	学生調査やカリキュラムマップの作成方法、GPAの活用方法について学内で検討中&自身で勉強中でしたが、事例を伺ったことで本学の現状の「読み方」のヒントをいただきました。	1	内容充実していました。例えば、カリキュラムマップの作り方などは先生にご協力いただけてトライしてみたいです。	専門的な事例を分かりやすくご説明いただきありがとうございました。
7	私立大学	アメリカでの現状がよく分かりました。日本の大学で同様の取り組みを導入することができるのか、本音を言えば、10年経っても難しいと感じました。	1	—	最後の意思決定しない、選択肢を提示するに徹するはよく理解できます。大学の規模、特に研究型大学にあっても学習成果アセスメントの重要性は共通なのかについても教えていただきたいと思います。
8	私立大学	途中より失礼しました。統計を実業務で役立てる難しさを感じていましたが、実際の成果の一端を拝見でき、今後の期待が持てました。機会がありましたら、ぜひまた詳しくお話をお聞かせください。	1	—	—
9	私立大学	学生さん、先生方が引っかかっているところ(難関科目、成績評価分布)を示して気づきを与える取り組みが参考になった。	1	実際の集計に加えて普段どのような人間関係の中で仕事をされているのかを知ることができたため。	国が違っても、気づきのきっかけを使いながら、人と人の関係で改善を進めている様子が分かりました。
10	私立大学	私は、現在学生支援センターという部署で勤務する事務職員です。本学では、GPAやカリキュラムマップも導入されていません。本田先生の説明のように、導入に時間をかけるより“やってみる”、そして検証していく。導入→検証→改善のサイクルを構築しているところはさすが!!です。	1	本田さんの能力を最大限利用するアメリカの大学システムはやはりすごい。GPA=数字に置き換えるだけと捉えていたが、表を用いて説明でき、奨学金や学習コーチによる支援を必要とする学生を発掘できる点について参考になった。	IR・EMを駆使して学生を支援する日本の大学も教員、事務職員が一体となって取り組んでいかなくてはなりません。
11	私立大学	・アセスメントの意味。 ・教員、プログラムをサポートする業務。	3	自分の予備知識の不足。アメリカとの違い(これは理解できるし、満足！)	—
12	私立大学	特に教員、執行部との距離感について。こちらが決定・強要するようではだめだという点で参考になることがあった。	2	・自身の知識不足のため、理解しきれない点があった。 ・ポर्टフォリオについて聞きたかった。	最も知識のある主要な方々が発言されていたので、知識の浅い私のような者には少し参加しにく感じた。
13	私立大学	実際の業務における事例を用いたお話でアセスメント担当が何をしているのか理解できた。	2	事例を見せていただけたのは興味深かった。それを自大学でどのように活かしていくのか、日本の大学としてどのような方策があるのかをうまく絡めた催しにつなげたら参加者の満足度はより増す気がする。	—
14	関係機関	学習成果の捉え方について新しい視点を得た(測定し、フィードバックして改善につなげるというもので、その内容の取捨は受け手が判断するもの、という意識であり、日本での捉え方では、個人にも拠るが、苦しいもの→必ず改善につなげなくてはならないという意識が働いているように思う)。カリキュラムマップの考え方についても具体的にどのようにプログラムおよび機関(大学)に影響を与えるのか(可能性があるのか)理解できた。	1	学習成果の理解が深まった。	具体的なお話から、学習成果との向き合い方を考えました。今まで概念的な話ばかりを聞いてきて、今一つ理解できなかったことが、実際のところを伺うなかで、明確になったところがありました。ありがとうございました。

15	関係機関	日本とアメリカの学習成果の評価に対する考え方の違い、共通点がよく分かり、日本でも導入可能なことがあることが知れました。	1	全てのご説明について分かりやすい具体例をグラフや表を使ってご説明いただいていたため。	今後も機会があれば、本田先生のお話を聞きたいです。
16	関係機関	改善プロセス(サイクル)をきちんと回すためには、エビデンスをどう出すか、分析手法も大事だが、どう出すかが重要であることが改めて実感した。	1	日本人研究者でアメリカの実践報告を聞けることはあまりないので、いい機会でした。	日本での取り組みの差はどこにあるのか、意外にアメリカもできてないことが多いと思います。日本の高等教育政策は、アメリカの後追いがほとんどなので、そのあたり(出来ていないこと)を踏まえて日本の取り組みを考え直すには、非常に有用な機会でした。
17	関係機関	アメリカでの現状と日本での事例を知ることが出来、大変勉強になりました。	2	授業評価やポートフォリオについてもう少しお話を伺いたかったです。それ以外については大変面白く、分かりやすかったです。	機器の接続やwebの設定などが上手くいかないことによるロスタイムが多かったように感じましたので、そのあたりがスムーズにできれば、よりお話を伺いできたのではと少し残念に思いました。少人数で質問しやすい雰囲気でも良かったです。ありがとうございました。
18	関係機関	具体的なツールの使い方がイメージでき、活用のための勤所がどこにあるのか、たくさんのお話をいただきました。カリキュラムマップの作り方、学生調査データの提示の仕方など、日本とアメリカも教員との関係の難しさは似ていると感じました。	1	具体的な例をお示しいただき、大変、勉強になりました。	—
19	関係機関	カリキュラムマップの概要、事例を知ることができた。授業の方法や内容は教員以外でも改善案を作ることができると分かり、自分も応用したいと思った。	1	時間も内容も適切で、質疑を通じて、他大学の状況や課題も知ることができ有意義だった。	—
20	非公開	個別事例で具体的にどのようなことをIR担当者が行っているのか(そしてウラ話も)聞くことができ、自大学でどのように動けばよいのかイメージと勇気を持てるようになったこと。	1	各論をわれわれのレベルに合わせて丁寧に解説いただいたこと。もっといろいろな話も聞きたいところではあるが、仮に聞けたとしても頭が飽和状態になってしまうので、時間的にもちょうど良かったと思われる。	—